

遣唐使船  
奈良へ

# 復原パーツ第1弾

## 平城宮跡会場へ到着

来年3月  
完成予定  
22日から組み立て開始

来年の平城遷都1300年祭主会場の平城宮跡会場（奈良市）で目玉展示物となる復原遣唐使船のパーツが17日、パーツを製作した静岡県内の造船所からトレーラーで同会場予定地の設置場所に到着した。パーツは甲板より下が7個で、この日は2個到着。19日までですべてそろい、22日以降、組み立てが本格化する。全体の完成は来年3月中旬の予定。

遣唐使船の復原事業  
は平城遷都1300年  
記念事業協会が担当。

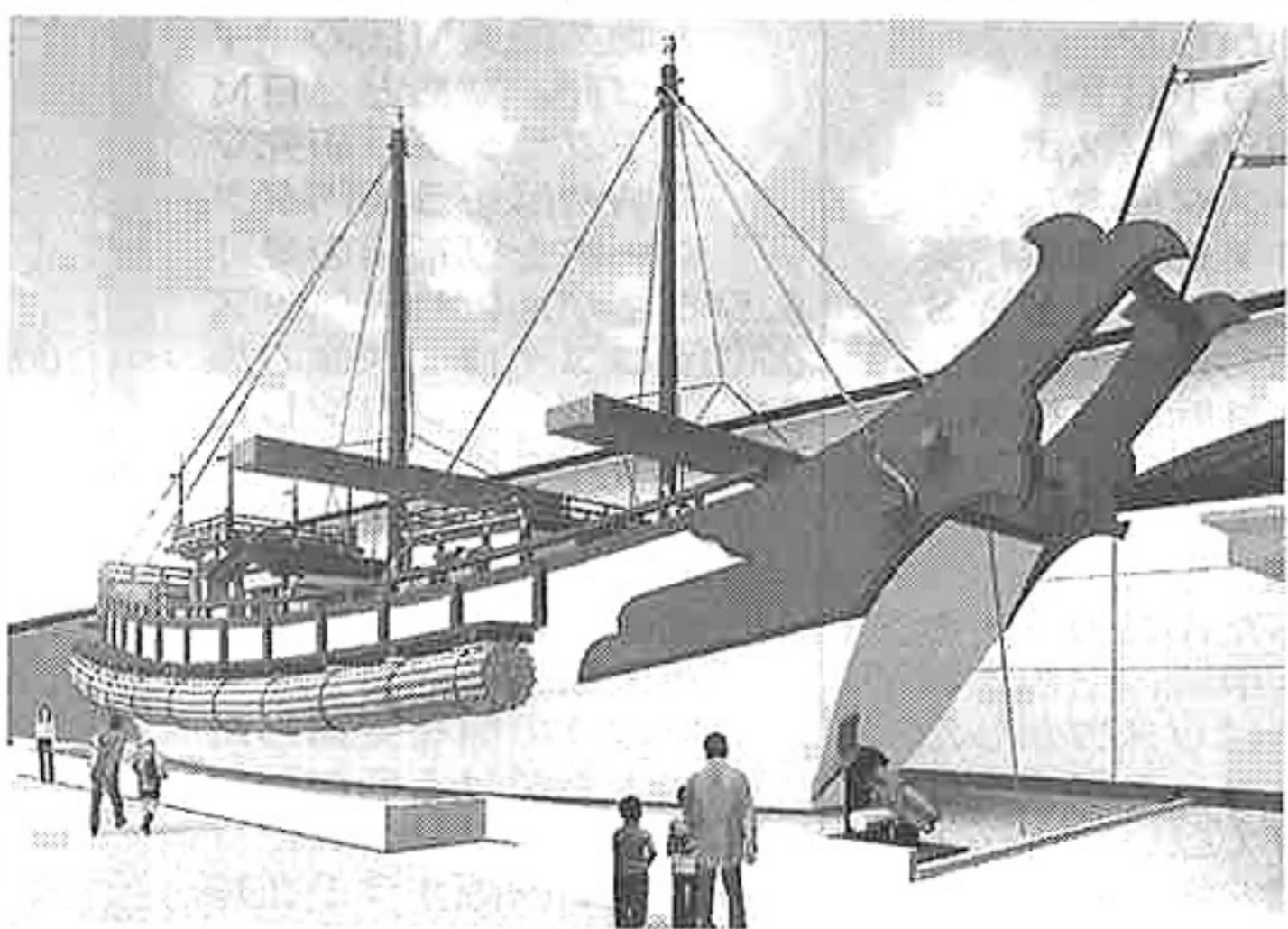
パーツの製作は、古  
静岡県松崎町の岡村造  
代船の復原で全国唯一  
船所で行われた。16日  
の技術を持つとされる  
に現地を2台のトレー



トレーラーからクレーンでつり上げられる遣唐使船のパーツ＝  
17日、奈良市の平城宮跡会場予定地で

ラーで出発し、17日午  
前8時すぎ、朱雀門の  
西南近くで県が建設中  
の平城京歴史館北側に  
到着した。

パーツは甲板より下  
で、先頭・後尾部分を  
除いたうちの後ろ部分  
（長さ約9.5m、幅約8.5m）  
の右舷、左舷の2個で、  
杉材製。クレーンでつ  
り上げられ、本来の組  
み立て位置に据えられ  
た。作業は約1時間半  
で終わった。



復原展示される遣唐使船の完成予想図（平  
城遷都1300年記念事業協会提供）

同協会は来年1月下  
旬ごろから甲板上部の  
屋形やマストの設置を  
行い、2月上旬ごろか  
ら塗装工事を進める。